

女子大塾

～女子大生による県南部学習支援～

課題・現状 (1)

学習機会における不平等

- 奈良県南部地域には学習塾はほとんど存在しない
→都市部で暮らす子どもとの学習機会の不平等につながる

地理的課題

- 学校の統廃合による通学圏の広がり
→集団で遊ぶ機会の喪失

現状・課題 (2)

保護者の負担

- 村外の塾へ通うため、保護者による送迎が必要

高校・大学生と接する機会

- 高校・大学生など年上の子どもと接する機会が少ない
→将来を思い描くにあたって見本となる人物がいない

野迫川村 女子大塾 内容（1）

女子大生が小中学生に勉強を教える

- 2016年3月下旬 4日間
- 問題集を事前に配布
(学校の宿題にも対応)
- わからない所を授業内に
女子大生が教える
- 家庭教師方式で個別指導
- 学校の宿題にも対応



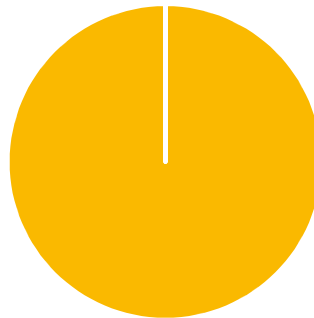
野迫川村 女子大塾 内容（2）

- 女子大生が地域のことを教わる
- 女子大生の今までの学生生活の紹介
- スポーツやクッキング、パソコン
などのレクリエーション
→勉強だけでなくメリハリのある学習



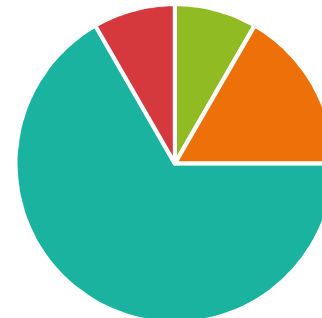
野迫川村 女子大塾 内容（3）

次回も参加するか



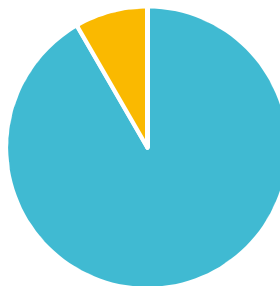
■ 次も参加する ■ 次は参加しない

4日間という期間について



■ とても長い ■ やや長い ■ ちょうどよい
■ やや短い ■ とても短い ■ 無回答

教え方



■ 分かりやすい ■ どちらでもない ■ 分かりにくい

1日の長さ



■ とても長い ■ やや長い ■ ちょうどよい
■ やや短い ■ とても短い

事業内容

- 平成 2 7 年度の野迫川村での塾の経験を活かし、今年度は東吉野村にも活動の場を広げる
- 来年以降は、野迫川・東吉野両村での事業を継続し、さらに南部地域数か所への拡大を目指す
- 長期休みだけでなく週末の実施も検討

今後の 展望・課題

内容のバリエーションを模索する

- ①勉強のみ
- ②勉強＋レクリエーション
- ③勉強＋小中学生を大学に招き、
大学生活を体験してもらう

- ・女子大塾を継続していくにあたり、
財政的な自立を考える
- ・大学の教職科目に組み込む

期待される 効果

- 小中学生が新たな学習機会を得られる
- 中学生が自分たちの住む地域を大学生という外部の人に紹介・案内することで、子どもたちが地域を見直すきっかけをつくる
- 女子大生が南部地域における状況を知ることができるとともに、奈良においての就職を考える機会となる

実施方法

